

大正二年十一月五日發行

婦人と子ども

第十三卷
第十一號

フレール會

第十三卷第十一號目次

子供から學べよ

英文學にあらはれたる子供(十一)

○『ジューン・アィア』(ブロンテ)

手工應用玩具の造り方

岡田みつ
藤五代策

保育と自然知識

神戸幼稚園

文展の子供の繪と彫刻

倉橋生

附 録

美學講話(第十回)

菅原教造

本誌定價

一冊 郵稅共金拾壹錢 六冊前金郵稅共六拾錢
拾二冊同金壹圓貳拾錢 郵券代用一割増

購讀申込

本誌購讀御希望の方は右定價表により振替貯金にて御拂ひ
込み下さい。直に御送本致します。(振替口座東京一七二六
六番)

本會宛御用務

本會宛諸般の御用務は左の如く願ひます

(庶務上保姆紹介に關する件をも含む)の御手紙は
東京市小石川區久堅町七十四番地フレイベル會事
務所宛

會計事務は東京女子高等師範學校附屬幼稚園内、
雨森劍宛

本誌編輯の御用務(寄稿、廣告等)は東京府下代々
木山谷一二四倉橋惣三宛

大正二年十一月五日發行
大正二年十一月四日印刷

編輯兼發行者 倉橋惣三
東京府豐多摩郡代々幡村大字代々木山谷一二四

印刷者 井登
東京市本所區番場町四番地

印刷所 凸版印刷株式會社本所分工場
東京市小石川區久堅町七十四番地

發行所 フレイベル會

婦人と子ども

第十三卷 第十一號

子供から學べよ

一
幼児教育に多くの基礎的知識を必要とすることは、前號『保姆論』にも説いた通りである。しかし、子供の心性を知るといふも、子供を如何に取扱ふべきかの方法を知るといふも、本や講義からのみ學ぶことではない、もとはと言へば、いふまでもなく子供から學ぶことである。

『子供から學べ』といふことは、フレーベルが幼児教育者に與へた最大なる格言の一つである。のみならず、フレーベル自身が其の實を體證して居るのである。蓋しフレーベルの彼の教育的創見は、素より彼れの偉いなる天才によることであるには相違ないが、一つに彼れがよく子供に學んだ結果であるといへる。幼稚園教育の第一原理たる『自

己活動』の論は、フレーベルの頭から織り出されたものでもなく、天から天くだり、地から湧き上つたものでもない。又古典から漁り得たものでも勿論ない。たゞよく子供から學んだのである。『自己活動』の第一原理に基いて、其の教育方法として用ゐられた遊戯でも手技でも、乃至いろいろの教育玩具でも、いづれも皆子供から教へられ、子供自身の生活から思ひついたものである。此の意味に於て、フレーベルの師はシェリングでもなく、ペスタロッチでもなく、實に子供であるといつてもよい。

フレーベルのみではない。教育上の偉大なる創見は、すべて、子供から學んだもののみである。若し、それが、子供以外のものから出た知識理窟で

あるときには、大抵失敗であることが多い。即ち、少しく奇に過ぎた言ひ方をしようではあるが、子供は先づ教育者に教へて、それで自分を教育させるのであると言つてもよい。

此頃多くの人の注意と敬服との的となつて居るモンテッソリーの教育意見及びその考案なるものは、人々は如何にもモンテッソリーの創見として感心して居る。成る程それにも相違ない。しかし、モンテッソリーの偉大なる處は、その羅馬大學に於ける學問よりも、セガン其他の研究よりも、よく子供に學び、子供の教ふる通りを忠實に實行した處にある。

二

吾人の許へ來て、如何にせば子供及び其の教育法が充分理解せらるべきやと問ふ人が屢々ある。而して、たゞ吾人から參考書の數種と、吾人の意見とを聞き取つて満足しようとする人が屢々ある。

それが教育上の純門外漢であるが、始めて教育に従事し始めたといふ人々ならば別に不思議もないが、幼稚園教育に従事すること既に數年、長い月日の經驗を履んで來た人に、それが多いのである。

から驚く。吾人はそつういふ人々に對して言ひたい。あなたは、本よりも吾人よりも立派なる先生（子供）を常に澤山有して居らるゝにあらすやと。之れは皮肉でも何でもない。

幼稚園教育法に活潑な進歩が少なく、適切なる新考案の出づること少ないのは、實際家が多くは講義及び書籍等の所謂傳承的知識にのみよらるゝからである。言ひ換ゆれば、直接に兒童より學ぶことによつて得る直傳的知識によられないからである。傳承的知識は假令精確であつても、固定的であり靜的である。そこから新しい着眼、新しい試みが湧き出て來るような動的な處が缺け易い。理論は立つ、しかし活用は少い。

我國に、實際直接によく子供から學ぶ教育者の多く出ない中は、我國の幼稚園教育は何時迄も此の無生氣と不活動とを脱し得ない。其反對に、一人でもよく此の態度をとることの出來る人があつたら、兒童は其の無限なる寶庫の秘鍵をその人に托して、その人を用ゐて、我國を用ゐて、世界の幼稚園教育に大いなる活氣と知識とを惜む處なく豊かに與へるであらう。

英文學にあらはれたる子供 (十二)

東京女子高等師範學校教授 岡田みつ

『ジエーン アイア』

(Jane Eyre)

ジエーンアイアは女作家ブロンテ (Brontë) の有名の小説で女主人公の名を取つて題としたもので、す。始數十ページは可憐の孤兒ジエーンが伯母の家で厄介者扱せらるゝ所を描いたもので一讀坐らに哀を催します。例によりその大略を下に掲ぐる事に致しました。

(一)

其日は運動には出られさうもなかつた。朝、一時間ばかり葉もない樹林の中を子供達皆で逍遙したのだが、晝食後 (リード夫人は御客の無い時は晝食を早く済すので) からは、寒い風が黒雲と、浸み透るやうな雨とを誘つて來たので、戸外の運動などは思ひもよらぬ事になつた。

ジエーンは宜い鹽梅だと思つた。此子は長い散歩は殊に冷える午後などは、嫌ひであつた。底冷のする夕方に指の先がピリ／＼痛くなつて、エリ

ザやデヨンやデョーチアナなどの從兄弟達に體格の及ばぬのに氣は引けるし、おまけに、乳母のベシーに叱られて心細くもなつて、家へ戻るのは、厭で堪らなかつた。

エリザとデヨンとデョーチアナは今御客間で、母さんの周圍に集まつてゐる處で、母のリード夫人は、暖爐の傍への長椅子に身を横へて、愛兒等を引寄せて (此間だけは喧嘩も泣聲も起らない) 満足の體であつた。ジエーン丈は其仲間から省かれて居た。御前を離して置かなくてはならぬのは氣

の毒だが、止むを得ない。ベシーにも訊き正して見、又、私の目にも御前が人懐かしい、子供らしい氣性（もつと陽氣で、無邪氣で、自然な）になろうと心懸けるのが見える迄は、機嫌の良い、可愛い、子供達の仲間入はさせられぬから」と夫人は言ひ聞かせた。

「私が何をしたらって、ベシーが言ふのです」とジェーンは尋ねた。

「理窟を言つたり、聞き返しをしたりする人は私は嫌ひです。大人に對つてそんな風をする子供は、どうも可愛氣が無い。何處ぞへいつて坐つて御出で。もつと優しく口がきけなければ、黙つて御出で」

御客間に接して小さい部室があるので、ジェーンは其處へそつと入つた。本箱が一つある其中から、一冊の本を、―但し晝入りのであるのを確めてから―ジェーンは手にした。而して窓の闕に登つて、足を疊み込んで盤坐あぐらをかいた。その上に赤いモリ

ン布の窓掛を搔き合せて、二重に人目から隠れてしまつた。

ジェーンの右側の眺めは、赤い窓掛の壁で閉されてゐたが、左側は窓ガラスなので、十一月の寒さを防いで、しかも光線を遮らなかつた。書物のページを繰りながら、時折、ジェーンは、冬の午後の景色を眺めた。遠方は霧だか、雲だかで一面に薄鼠にボーツとなつて、近くは、濡れた芝生と、風に揺ぐ樹立と、長く凄く吹き荒む大風に捲くられて、絶えず沫しぶきき飛ぶ雨とばかりであつた。

ジェーンは再び書物へ目を落した。ベキツクの著「英國鳥類の歴史」といふので、字の部分は餘り好まなかつたが、晝は一々意味があるので、何れもく面白事は非常であつた。但し發達せぬ子供の智力感情では、不思議と思はれるのも澤山あつたが、時々ベシーが冬の夜など機嫌のよい時に、子供部室へ熨斗ひのし臺を持込んで來て、子供達を其周圍に座らせて、奥様のレースを仕上げたり、

自分の帽子の縁を縮らせたなりながら、御伽話や、昔の小唄の中から、種々の話をして聞かせて呉れる、その話に劣らず興ある事に思はれた。

書物を膝に載せてジエーンは―兎に角此子としては―相應に楽しんでゐたので、唯恐れるのは邪魔の入る事だけであつたが、其邪魔は忽ちにして實現せられた。部屋の戸が明いて、

「こら！ 偏屈者！」とデヨンの聲がして、後は途絶えて終つた。誰も居らぬと思つたらしい。併しやがて、

「一體彼の子は何處に居るのだらう、エリザさん、デヨーザさん」と姉妹達を呼び立て、「ジエーンは此處に居ませんよ。雨の中へ出て行つたと母さんに言ひ付けて御やりなさい！ 太い奴だ！」

ジエーンは窓掛を引いておいて宜かつたと思ひながら、何卒此隠家が見付けられないやうにと祈つて居た。デヨンは敏捷い子でないから、一人ならば見付ける筈はなかつたのだが、エリザが部室

の入口に首だけ差し入れて、直ぐ様「必然窓の敷居の上に居るのよ」と言つた。

ジエーンはデヨンに引摺り出されるのが恐ろしくて、立所に出た。

「何の用があるのです」と手持無沙汰に氣後れがしたジエーンは尋ねた。

「何の御用です坊ちやんと御言ひな。此處へ御出でなさい」とデヨンは答へて、肱掛椅子に坐つて、手真似でジエーンに傍へ来て立てと知らせた。

デヨンは十四才の少年で、ジエーンより四つ年上だが年齢の割に大柄で肥満つてゐて、肌が荒くて艶氣なく、顔貌重くろしく、而して手足は太く大きかつた。食ふ癖があるので目がとよんと爛れたようになり、頬は締りなくなぶ／＼してゐた。學校で勉強してゐるべきなのに、身體虚弱との名義で、一二月の静養に母親が自宅へ連れて來てゐるのであつた。家庭から此子に贈つてよこす菓子類の分量を減らすのがこの子の利益だと先

生は確く斷言するのだが、親心には其が冷酷の評語と受取れて、否デジョンの顔色の黄ばんで居るのは、勉強の度が過ぎるのと、家庭へ歸りたさの心の腦みの爲だなど、母親は上品に考へて居た。

デジョンは母をも姉妹達をも、あまり懐かしむ様はなく、ジェーンをば譯もなく忌み嫌つた。ジェーンを虐め呵責する事は、唯一一週に兩三度とか、一日に一二回といふのでなく、年百年中で、ジェーンも心からデジョンを恐れて、此少年が傍へ來ると、身體が自から竦む感があつた。その恐嚇と呵責に逢つては、哀訴などは全然利目がないので、時にはあまりの恐ろしさに、ジェーンは我を忘れて茫然とする事さへもあつた。女中共も、ジェーンの肩を持つて、若主人の機嫌を損ずるのを好まないし、リード夫人は此點には、瞞旨に等しいので、縱令その面前で（蔭でする方が多いのだが）デジョンがジェーンを打つたり、悪口を言つたりする事があつても、全く目にも耳にも入れずに居た。

デジョンの言ふ儘にするのが癖になつてゐる、で此時もジェーンは、その椅子の傍へ行つた。すると、デジョンは舌の根の抜けさうになる程、舌を出してや、暫時ジェーンを見て居た。ジェーンは、今に必然打たれる事と思ひ、それを怖れながらも、打つ人の顔の醜さよとつくづく眺めて居た。その顔付でジェーンの心中を悟つたものか、デジョンは、物も言はず、いきなり烈く此少女を擲つた。打たれてジェーンは跟蹤きその拍子に一足二足後下りをした。

「今のは御まへが先刻母さんに失禮な返事をしたのと、窓掛の蔭にこそ隠れてゐたのと、今爲た目付の罰だ！ 惡る鼠め！」

デジョンの暴言には馴れてゐるので、ジェーンは口答をしやうなど、は更にも思はず、無禮の雜言に伴隨してゐる打擲を、如何辛抱しやうと唯其ばかりを氣にして居た。

「窓掛の後で何をしてゐた？」

「本を讀んでゐたんです。」

「その本を見せろ。」

ジエーンは窓の處へいつて、本を持つて來た。

「此家の本を持ち出す法はない。御前は此家の厄介者だと、母さんはいつていらつしやる。御金もないんだ。御前の父さんは、一文も残していかなくなつたのだ。だから御前は、乞食になるのが當然で、僕等のやうな上等の人達と、一所の家におゐて、同じものを食べて、衣類まで母さんに着せて頂く筈はないのだ。僕の本棚を混亂せるとかうだといふ事を教へてやる。——この本は皆僕のだからね。この家だつてそうだ——今は兎に角、おきに皆僕のものになるのだ。あの戸の處へ行つて、鏡と窓から離れて立つて居ろ。」

ジエーンは言はれる通りにした。始はジョンが何をする氣だか悟らずに居たが、例の本を差し上げて、今や自分に投げ付けさうな態度なのを見て、思はずアツ！と叫んで小脇に退いた。しかし時已

に晚し。本は飛んで身に當つて、ジエーンは仆れた！ その途端に戸に頭を打當て、傷が出来た！

血は出る、痛みは烈しい。ジエーンは恐怖は絶頂を越えて、恐怖以外の感情が勢力を得て來た。

「酷い、非道い悪人め！ 人殺し見たやうな！ 奴隷虐め！ 羅馬の帝王見たやうだ！」

ジエーンは、ゴールドスミスの羅馬史を讀んだ事があるので、ニロ王、カリグラ王などに就いての知識があつて、心中密かにジョンと比較をしてゐた其がつひ口に上つたのであつた。

「何！ 何！ 僕に對つてそんな事を言ふか！ 聞いたかい！ エー？ エリザも、ヨーチャも、母さんに言はないで置くものか！ だが其よりも先！」

とジョンはいきなり走り寄つて、ジエーンの髪と肩を把んだ。其様は暴君、殺人者の形相を備へてゐた。ジエーンは頭部から頸へ血の雫が流れ傳はつて、ヒリ／＼痛む感じが、恐怖の念よりも強く心を支配したので、死物狂になつて彼に應じた。

自分の手で敵を如何したのか記憶は無いが、デオンは悪鼠！悪鼠！と吼つて居た。加勢は近くにありで、エリザとデョーシアナは二階へ行つてゐた。リード夫人の許へ駆け付けた。夫人はその場へやつて来た。ベシーも仲働きのアボットもあとから隨いて来た。二人は引き分けられた。誰だか「まあ、坊ちやんに食つて掛かるなんて途方もない亂暴な」とか「こんな癩癩持ッてあるでせうか」とか言つてゐた。リード夫人は

「赤部屋へ此子を連れて行つて、押込めてお置き」と附け足した。

二人の召使の手に掛けられてジエーンは直と二階へ運び去られた。

(二)

途々ジエーンは反抗した。之は常にない事だ。猶更ベシーとアボットの悪意を増させるやうになつた。實はジエーンは少し氣が變になつて居たので、唯一瞬時の亂暴で思ひ掛けぬ罰を蒙るのなら、一

層暴れるだけ暴れた方がと、狂妄になつてさう思つた。

アボットさん、その腕を押へて下さいよ。氣狂猫見たやうだ。」

「呆れかへるよ、ジエーンさん。坊ちやんを打つなんて。飛んだ恐ろしい仕打ではありませんか。

御恩になつて居る方の御子を、あなたの若御主人をさ。」

「主人だつて！如何して私の主人なの。私や女中かへ。」

「いゝえ女中よりも、もつと下等なのです。何も爲ないで養つて貰つて居るのですから。其處へ坐つて懺悔でもなさい。」

二人はリード夫人の命じた其部屋へジエーンを連れ込んで腰掛に着かせた處なのだが、ジエーンはその刹那の考で弾かれたやうに跳び上つた。すると、二人の女は立所に取押へて、

「靜として居ないと縛り付けますよ。アボットさ

ん、あなたの靴下留を貸して頂戴。私のなんか
すぐ引切られて終しまいさうだから」とベシーが言
つた。

アポットはその太い脛から靴下留を外さうとし
た。ジェーンは、縛る準備を見縛ひくせらるゝ屈辱を
思つて、激した心もやゝ我に歸つて、

「そんなもの外さなくとも宜い！動きはしない
よ。」

と保證して我から腰掛に腰を下ろした。

「では必然きつとですよ」とベシーは念を押して、ジェ
ーンが落ち着きさうなのを見届けてから、手を放
した。それから、アポットと二人で腕を拱こいて、
ジェーンの顔を忌々し氣に眺めて、正氣で居るの
か知らんと疑ふ氣色で、

「あんな亂暴を今迄した事はないのだが」とベシ
ーは、アポットに對つていつた。

「でも生來うまれつきさ。私や奥さんに此の子に就いての思
はくを折々申上げると、奥さんもさうだと仰る

のですよ。狡こい子だからね。この位の年でこん
な陰險な子は滅多にありませんよ。」

ベシーは之には答へずジェーンに對つて、

「あなたね、此家の奥さんの厄介になつてゐるの
だといふ事をよく覺えていらつしやい。食べさ
せて下さるのですからね。此家から追出され、
ば養育院へ行かなくてはならないんですよ。」

ジェーンは答へる詞はなかつた。珍らしくもな
い！物心の付く抑々おそから言はれてゐる事で、自分
が厄介者だとの苦情は、一種の歌―苦痛な壓へつ
けられるやうな、者にも意味のよく解らぬ―頭見
たやうに思はれた。

アポットは横かち口を出して、

「お嬢さんや坊ちやんと同等だなど、思ふと間違
ひですよ。奥さんが親切で御子様方と一所に育
て、下さるのですから。此家の御子様方は今に
御金を澤山御貰ひなされるのですが、御前さんは
一文もないのです。だから大人しくして皆さん

の御氣に入るやうにするのが當然でさあね。」
「かうして種々言つて上げるのもあなたの身の爲
なのですよ」とベシーは慳貪都でなく言ひ添へ

た。「機嫌よくして、よく用でもするやうになさ
ると、此家にも居られるでせうが、さもなくて、
無禮な事なんかなされば、奥さんは必然他處へ
やつて御仕舞ひなさいます。」

「おまけに神様の罰が當るさ」とアボットはいつ
た。「癩癩を起こしてゐる最中にボンと神様が命
を取つて御仕舞ひなさるかも知れない。其時は
死んで何處へ行くでせう。さあベシーさん下へ
行きませう。此子のやうな心にはどうかして成
りたくないものだ。ジェーンさん、一人になつ
たら祈禱をなさい。悔い改めなさいと、恐
ろしいものが煙突から入つて来て、連れていつ
て仕舞ふかも知れません。」
二人は戸を閉めて、錠を下ろして立ち去つた。

○幼稚園保育ト兒童身體ノ發育及疾病 ノ關係 (珍録)

(安西茂太郎氏)

著者ハ幼稚園ナルモノガ兒童身神ノ發達ヲ阻害シ或ハ其身體ヲ傷
害スルモノナルヲ否ヤノ研究ノ第一歩トシテ、三箇ノ公立幼稚園
ヲ有スル下關市ニ於テ、昨年及今年ノ四月全市尋常小學校第一學
年ニ新入シタル兒童昨年八四七人、今年一八五五人ヲ檢査シタル
モノ、内、前年ニ於テ就學義務ノ發生シタル者ニシテ疾病又ハ其
他ノ事情ニヨリ就學ノ遲滯シタル子ノ所謂年長兒即チ入學當時年
齡滿七年二月以上ノ者ヲ除キ、滿六年一ヶ月乃至七年一ヶ月ノ
年齡ニアル全市ノ學齡兒ニツキ幼稚園ノ保育ヲ受ケタル兒童昨年
一八九人、今年二三三人ト幼稚園ニ關係ナリ家庭ヨリ直チニ入
來タル兒童昨年五八〇人、今年八五九人ノ身體的發育及ビ疾病ヲ
比較調査シタル結果ハ

一、幼稚園ノ保育ヲ受ケタル兒童ハ、然ラザル者ニ比シ、昨年ノ
新入生ニ於テ男兒ハ身長體重胸圍ノ平均數量劣リ、女兒ハ身長
胸圍ノ平均數量優ルモ體重ノ平均數量劣リ、今年ノ新入生ニ於
テハ男女トモニ身長ノ平均數量ハ勝レドモ體重及胸圍ノソレハ
劣ル。

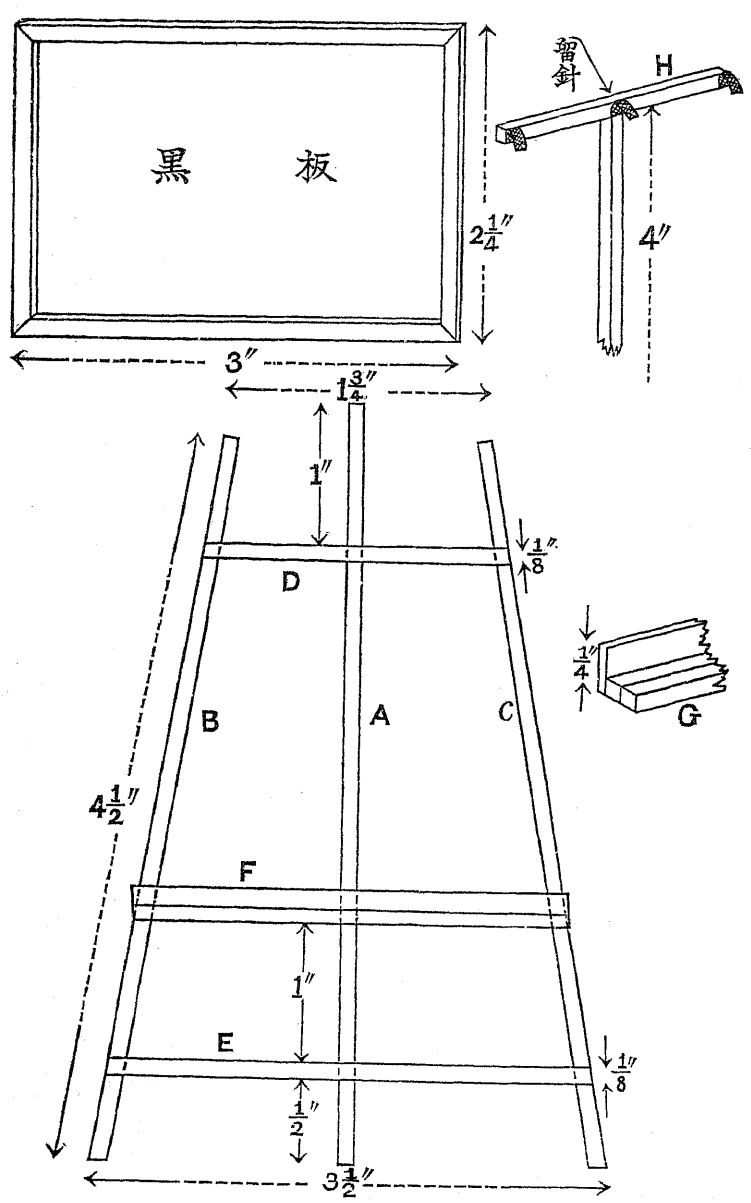
二、幼稚園ノ保育ヲ受ケタル兒童小學校入校後一ケ年間ノ身體的
發育増加量ハ、然ラザル兒童ノソレニ比シ男女トモニ身長及胸
圍ハ致テ甲乙ナキモ體重ノ増加量ハ優勝ナリ。

三、幼稚園ノ保育ヲ受ケタル兒童ノ體格ハ然ラザル者ノソレニ比
較スレバ、男兒ニ在リテハ強健體格者及ビ薄弱體格者比較的少
ナリ中等體格者多ク、女兒ニ在リテハ強健體格者比較的少ナク
中等體格者及ビ薄弱體格者多シ。

四、幼稚園ノ保育ヲ受ケタル兒童ノ疾病數ハ、然ラザル兒童ノソ
レニ比シ昨今兩年ノ成績トモニ「トラホーム」及其疑似症ト脊柱
彎屈ハ少ナキモ慢性鼻「カタル」、口蓋扁桃腺慢性肥大及齒齦ハ
比較的多數ナリ。(兒童研究第十七卷第四號)

家庭教育 手工應用 玩具の造り方
第三十五圖 黑板

藤 五代 策 譯



燐寸棒³²¹のもの二本と³²¹のもの二本とを作りて各其の兩端を削りて、幅³²¹長³²¹の平板の四邊に附着する。此の平板は墨か何かで黒く塗ると具合がよいが、さもなくば黒色の板紙又は紙石盤の毀れたのを代用しても宜しい。一寸注意して置きますが此の四本の燐寸棒は平板に附けると同時に其各の四隅も膠で附けねばならぬ。

今度は黒板立。燐寸棒³²¹のものを二本造りて、机の上にABCの如く頂を³²¹隔て、下部を³²¹隔て、並べる。中の棒の頂から³²¹隔てた所に幅³²¹に裁ちたる平板Dを膠で附ける。同じく中の棒の下端から³²¹を隔てた所に前と同じ幅の平板を着ける。次に此の横棒から³²¹隔てた所に黒板を載すべき棚を拵へるのである。即ち此の點に於ける差渡しを度りて、其の寸法によりて燐寸棒を二本造り、別に之と同じ長さで幅³²¹の平板を一枚造る。そこで此の二本の燐寸棒を膠でピッタリと附けて、之にG圖の如く平板を貼りつける。出來上つたならば

之をFの位置に取りつけるのである。

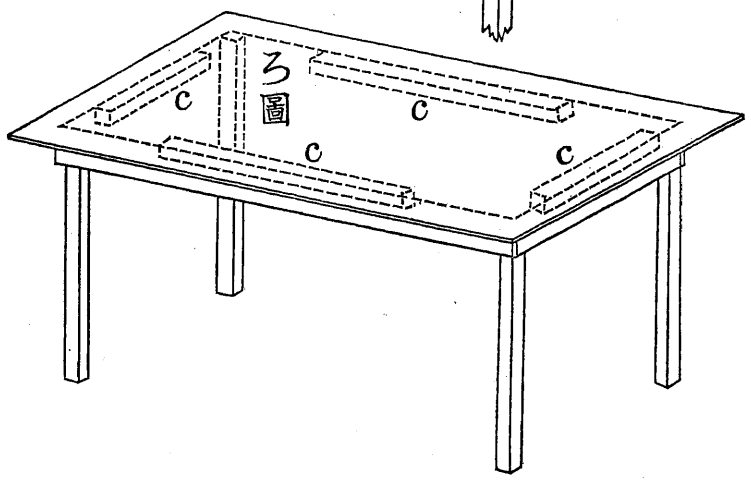
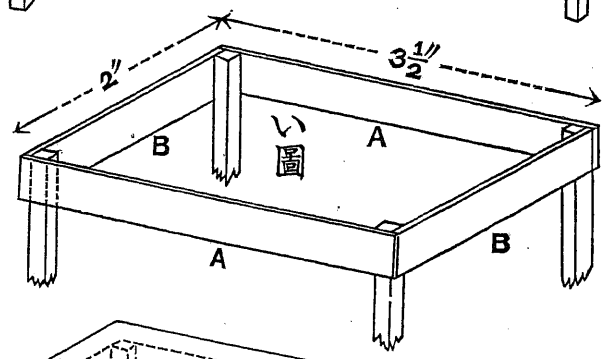
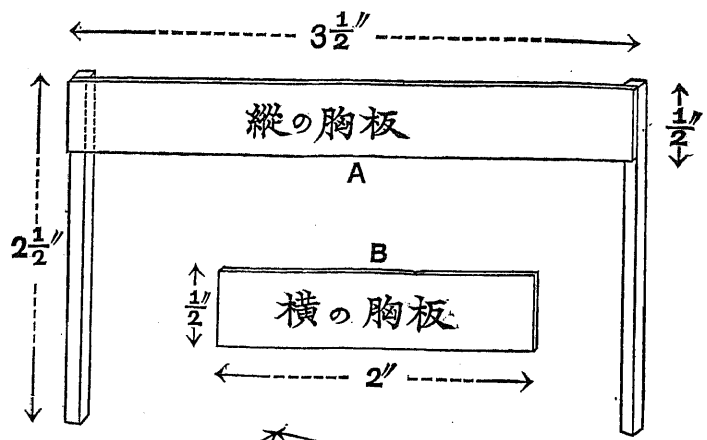
次は黒板立の支脚。燐寸棒長³²¹のもの一本とDなる横棒と同じ長さのを一本(H)を造り、之を圖の如く丁字形に附着して、Hの上から脚に通して留針³²¹を一本打ち込む。それからテープ又は地の硬い布片³²¹を長³²¹に裁ちたるものを三つ造りて、之をHの兩端及中央に貼りつける。それが乾いたならば此布片をDなる横棒の丁度裏の所でABCの柱に貼りつけるのである。脚が餘り擴がり過ぎたりなんかすると悪いから支脚³²¹及Aの下端を程良き長さの糸で繋ぎ合しても宜しい。

第三十六圖 卓子(長方形)

四本の脚には各³²¹長の燐寸棒を用ふる。次に平板を長³²¹幅³²¹に裁ちて卓子の板に當てるのである。

平板を幅³²¹に裁ちて、之から長³²¹のもの二枚を切り取りて縦の胸板となし、又³²¹のものを二枚切りて横の胸板に用ふるのである。

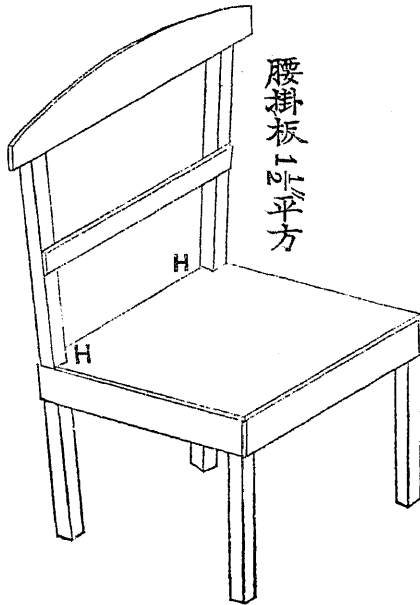
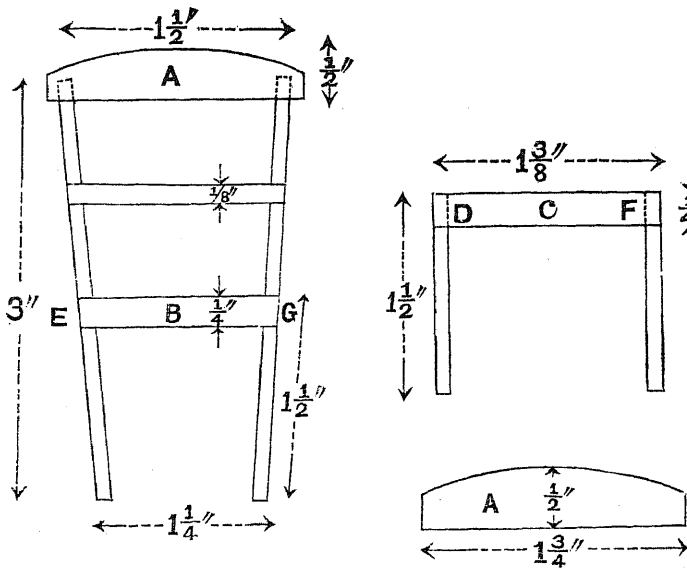
そこで机の上に脚を二本平行に並べてA圖の如く之に縦の胸板を貼付け、他の二本の脚も同じや



うに貼りつける。それからBなる横の胸板を取りて「い圖」の如く枠形に付ける。之で骨組だけは立

派に出来上つた譯である。

此の杵の上面に満遍なく膠を塗りて前に造つて置いた廣い板の上に杵を倒様に持つて、一方に傾寄つたりなんかしない様に、靜に板に壓しつける



腰掛板
H
平方

のである。又隣寸棒を適宜の長さに切りてOの如く板の裏面と胸板とに貼付ければ卓子がもつと堅牢になる。

茲に示した寸法は次ぎの第三十七圖の椅子と釣

合せたものであつて勿論もつと大きく造つても宜しいのである。

第三十七圖 椅子

隣寸棒を長 33 の二本と 11 の二本とを切り、長い方は後脚短い方は前脚に用ふるのである。先づ長い方のを机の上に並べて上部は 11 、下部は 11 の間隔を明けて置く。平板を長 11 、幅 11 に裁ちてAの如き形となし之を圖の位置に貼付ける。下端から 11 隔てた所に印を付けて、 11 幅の平板をの如く貼付ける。それからAとBとの中央に幅 11 の平板を貼りつけるのである。之で椅子の背部は出来上つた。

次は短い方の二本の机の上に平行に並べ其の間隔を 11 として置いて平板を長 11 、幅 11 に裁ちてCの如く棒の上端に貼りつける。そこで前後の脚が出来上つたならば、平板を長 11 、幅 11 に裁ちたるものを二枚造りて、之を結合せねばならぬ。即ち此の二枚の板を以てDとE及びFとGとを結合す

るのである。勿論BC及び此の二枚の板は腰掛板の支へになるのであるから皆な水平にならなくてはならぬ。今一つ注意せねばならぬ事は、此の二枚の板を付ける時に少し手加減を加ふれば脊が反れて眞物の椅子によく似る様になることである。次に平板を 11 平方に裁ちて腰掛け板となし、後脚に接する部分Hの所を削り去りて、然る後に之を貼りつけるのである。

又前の第三十六圖の卓子の如く裏面に隣寸棒を貼り付ければもつと堅牢になる。

保育と自然知識

神戸幼稚園

神戸幼稚園にては野外保育に就て種々研究の結果、幼児に適當せる動植物を季節に従ひ凡そ左表の如く豫定し、これに従ひて野外に於ける實際の觀察を充分有効ならしむるよう類りに考究實行せられたりあり。植物動物の種類は地方々々によりて多少の別もあるべく、又季節の差もあるべきなれども、大體に於ての参考となすを得べしと思ひ、左にそのまゝ掲載したり。尚ほ同園長望月くに子比は動植物に就て保母自らに豊富なる興味

と正確なる知識とを必要とし、専門家を聘して同地保姆諸君に此の學科の適切なる研究を促されつゝあり。いつも乍ら諸方面にその研究の熱心にして常に基礎的な事は敬服にたえざる所なり。(編者)

幼年部植物

四月

上旬 モ、(花)、ナシ(花)、サンシキスミレ、

シダレヤナギ。

中旬 ムギ、エンドウ、シバ、キヅイセン、イ

タドリ、ヘビイチゴ、スダメエンドウ。

下旬 オランダイチゴ、ヤヘザクラ、ウコンザ

クラ、サクラサウ、オホバコ、チドメグサ、

ツメクサ、ヤマエンドウ。

五月

上旬 ソラマメ、アヤメ、ボタン、バラ、シヤ

クヤク、フヂ。

中旬 ノイバラ、イヌタデ、スダメノヒエ、ナ

ハシログミ、モ、ノ木。

下旬 ブドウ(木)、ムシトリナデシコ、ヒナゲ

シ、タチアフヒ、ユキノシタ、サツキ。

六月

上旬 ダイダイ(花)、ザクロ(花)、イネ、ハナ

シヤウブ、ゼニアフヒ、アラセイトウ、ナハ
シロイチゴ。

中旬 ビハ(果)、キウリ(果)、キ、ツユクサ、

ビヤウヤナギ、ハルシヤギク、ミカン(花)。

下旬 ヒマハリ、アヂサイ、ダリア、テツボウ

ユリ、オシロイバナ、ヒヤクニチサウ。

七月

上旬 モ、(果)、ナスビ(果)、ホ、ヅキ、シノ

ブ、カーネーション、セキチク。

中旬 マツバボタン、オニユリ、ヒアフギ、エ

ノコログサ、メヒシバ、ネムノキ。

下旬 アサガホ、ナンキン、マクワ、シロウリ、

スイクワ、ナンバキビ。

八月

上旬

中旬

下旬

九月

上旬 ナシ(果)、ブドウ(果)、トマト(果)、

キツネノカミソリ、タマスダレ、ケイトウ、

サルスベリ。

中旬 ミヅアフヒ、ス、キ、サトイモ、ホウセ
ンクラ。

下旬 アラギリ、マツタケ、フヤウ、ダンドク、
バセヲ、ベンケイサウ。

十月

上旬 カキ(果)、クリ(果)、ザクロ(果)、ミカ
ン(果)、シロン、カヤツリグサ、チカラシ
バ。

中旬 リンゴ(果)、サヤマメ(果)、モクセイ、
ナツメ(果)。

下旬 モミヂ、イテウ、ハゼ、ナツヅタ、ヨメ
ナ。

十一月

上旬 ヤツデ、テンジクアフヒ、ベコニア、キ
ク、サマンクラ。

中旬 マキ、カウヤマキ、ナギ。

下旬 ダイコン、ニンジン、ゴバウ、カブラ。

十二月

上旬 ネギ、タマネギ、ユリ、シヨウガ、サツ
マイモ。

中旬 フモト、ラン、ヤマノイモ、クワキ、カ

モウリ。

下旬 ダイダイ(果)、ユヅ(果)、コンブ、クシ
ガキ、「カチグリ」、「カヤ」。

一月

上旬 ナンテン、フクジユサウ、マツ、タケ、
クマザ。

中旬 ソテツ、カシ、シエロ、シエロチク。

下旬 バラン、ヒトツバ、ヤブソテツ。

二月

上旬 イブキビヤクシン、ハイビヤクシン、タ
チビヤクシン。

中旬 ニホヒスミレ、ユキワリサウ、シヤボテ
ン。

三月

下旬 ウメ(花)、ツクシ、タンボ、スミレ。
上旬 ハコベ、カタバミ、ネコヤナギ、タビラ
コ。

中旬 ゲンゲ、スイセン、ヂンチヨウゲ、ギラ
ンサウ。

下旬 ナタネ、モクレン、ヒナギク、コトメバ
ナ、ツバキ。

年長部植物

四月

上旬 ハツカダイコン、チユリツブ、カイダウ、

セリ、ヤハヅエンドウ、カスマグサ。

中旬 クワ、ウマノアシカタ、キツネノボタン、

タガラシ、スカンボ、ワラビ。

下旬 トウダイグサ、ハ、コクサ、チガヤ、フ

キ、ミツバ、ウド、クリンサウ。

五月

上旬 センダン、シヨウブ、ヨモギ、クサノワ

ウ、サンシヨウ、エニシタ、マツヨヒクサ、

カシハ。

中旬 ドクダメ、ケシ、サカキ、ベチニア、テ

ツセン、ニホヒレンリサウ、ヤグルマギク。

下旬 ジャガイモ、キウリナへ、ナスビナへ、

トマトナへ、ウツギ、ノビル、ギシギシ。

六月

上旬 ガマ、ヒツギグサ、ヒシ、アヲウキクサ、

ヤヘムクラ、ノアザミ。

中旬 ナンキンマメ、サボンサウ、フトキ、ク

チナシ、ニハホコリ。

七月

下旬 ウメ(果)、シソ、テウセンアサガホ、ア
ンズ、ウツボクサ、センジユギク、カビ。

上旬 チンバギク、ノウゼンカヅラ、イヌホ、

ツギ、トリカブト、ムロ、カハラナデシコ、

クヌギ。

中旬 シキミ、ハス、ミノハギ、ハブサウ、ノ

ウゼンハレン、スベリヒユ、ヤブラン。

下旬

九月

上旬 ワタ、アサ、カウゾ、ハギ、ネヅミノヲ、

チカラグサ。

中旬 ゲンノジヨウコ、イノコヅチ、センダン

グサ、アシ、クマツバラ、カゼクサ、センニ

ンサウ。

下旬 チヤ、フチバカマ、カルカヤ、ヨミナへ

シ、キ、ヤウ、ワレモコ、クヅ。

十月

上旬 ヤクシサウ、ユウカリ、ジユズダマ、ア

ゼカヤツリ。

中旬 センブリ、リンダウ、リウナウギク、ヤ

マシロギク、コンギク。

下旬 ツハブキ、ヒヨドリシヨウゴ、ノキシノ

ブ、カラタチ、アカメガシ。

十一月

上旬 ハボタン、バナ、アナ、ス、アラミドロ、エビモ。

中旬 ソラマメ(種)、ムギ(種)アヅキ、ダイズ、ゴマ。

下旬 クス、スギゴケ、ゼニゴケ、ミヅゴケ、ウメノキゴケ。

十二月

上旬 アサクサノリ、アヲノリ、アラメ、ワカメ、(カンテン)。

中旬 マンリヨウ、ミヅナ、ワサビ、アヲサ、ミル、ホシダハラ。

下旬 ナヅナ、ユヅリハ、ヒ、ラギ、ウラジロ。

一月

上旬 アスブラグス、ハコネシダ、ロウバイ、シモフリヒバ。

中旬 スギ、モミ、ヒノキ、コノテガシハ、ゴキウマツ。

下旬 セキシヨウ、トクサ、キツタ、テイカカ

ヅラ。

二月

上旬 アヲキ、トガ、アスナロ、キカラボク。

中旬 ヒヤシンス、ニシキギ、マサキ、モクロク。下旬 カンツバキ、ウメモドキ、モチノキ、ツゲ。

三月

上旬 サギゴケ、ホトケノザ、ミチグサ、ワウバイ。

中旬 ヒガンザクラ、アセビ、レギヤウ、マダレツ。

下旬 イトザクラ、ミツマタ、ヤマザクラ、シネラリヤ、ウマゴヤシ。

幼 年 部 動 物

四 月

上旬 テフ。

中旬 ハチ。

下旬 アリ。

五 月

上旬 カヘル。

中旬 カニ、カメ。

へビ、トカゲ。

六月

上旬 ヤモリ、ホタル。

中旬 キリギリス、カマキリ、ハイ。

下旬 カ、ボウフリ、カバンボ。

七月

上旬 トンボ、ヤンマ、タイコムシ、アメンボ、

ミヅスマシ。

中旬 コガネムシ、タマムシ、コメツキ、カミ

キリ、クワガタ。

下旬 セミ、ツバメ、キンギョ、コヒ、カハホ

リ。

九月

上旬 スバムシ、マツムシ、クツワムシ、イラ

ムシ。

中旬 コーロギ、イナゴ、バツタ、ハタオリ。

下旬 ウンカ、カマドウマ、ワラジムシ。

十月

上旬 クモ。

中旬 タニシ、カタツムリ、ナメクジ。

下旬 ミミズ、トビムシ、ハサミムシ、ムカデ。

十一月

上旬 ハナアブ、ミノムシ、カイガラムシ、ヤ

スデ。

中旬

下旬

十二月

上旬

中旬 (カツラブシ)、カツラ。

下旬 イセエビ、イワシ、(ゴマメ)、(ホシダラ)。

一月

上旬 サケ、マス、(スルメ)、イカ、タコ。

中旬 ウシ、ウマ、イヌ、ネコ、ネズミ。

下旬 サル、ウサギ、ザウ、ブタ、シカ、ス

メ、カラス、ハト。

二月

上旬 ニハトリ、アヒル、(タマゴ)。

中旬 セキレイ、ホウジロ、アフム。

下旬 ウグヒス、メジロ、カナリヤ。

三月

上旬 モンシロテフ、キテフ、モンキテフ、ヒ

バリ。

中句 ミツバチ、マルバチ、ハキリバチ。
下句 イヘアリ、クモアリ、オホアリ。
年長部動植物

四月

上句 アブラムシ、テントウムシ、ヒラタアブ、
アゲハテフ。
中句 ユヅボウ、オキクムシ、クロアゲハ、カ
イコ。

五月

下句 イチゴハラシ、ハナノミ、ハナムグリ。
上句 アマガヘル、ツチガヘル、トノサマガヘ
ル、ヒキガヘル、オタマジャクシ。
中句 クワゴ、クワエダシヤクトリ、トスカミ
キリ、クワカミキリ、クワハムシ。
下句 テントウダマシ、ウリバイ、クロウリバ
イ、マムシ、カナヘビ。

六月

上句 ゲンゴロウ、ガムシ、タガメ、イモリ、
ハグロトンボ、トウスミトンボ。
中句 イヘバイ、クロバイ、キンバイ、シマバ
イ、アブラムシ。

七月

下句 アラバゴロモ、ワタムシ、カメムシ、ハ
マキクシ。
上句 キトンボ、ギンヤンマ、ヲニヤンマ、ム
ギハラトンボ、シヨウト／＼トンボ。
中句 キクスイ、ホシカマキリ、カミキリ、コ
フキコガネ、カナブンブン。
下句 ニイニイゼミ、アブラゼミ、クマゼミ、
ヒゴイ、フナ。

九月

上句 ツクツクボウシ、ウマオイムシ、(オサム
シ)ゴミムシ、ヘヒリムシ。
中句 シバミテウ、ベニシバミ、ジャノメテウ、
マメコガネ。
下句 ツマグロヨコバイ、(トビウンカ)、ハナ
セ、リ、イネノヅイムシ。

十月

上句 ノバチ、スバメバチ、クモバチ、ベッコ
ウバチ。
中句 ミチオシヘ、チヨロウグモ、カミナリダ
モ、ハイトリグモ。

下旬 ニナ、シヤミ、ヒル、ドデヨウ。

十一月

上旬 エビ、メダカ、ユリ(ダイユウチ)ハナス

ヒ、ミヅカマキリ。

中旬 コクザウ、カツラブシムシ。

下旬

十二月

上旬 カギ、チャウシガイ、トリカブト、アカ

ガイ。

中旬 サハエ、アカニシ、バイ、コヤスガイ、

(ホ、ツキ)。

下旬 アワビ、ハマグリ、イガイ、シヤガイ、

タングイ。

一月

上旬 ヒトデ、カイメン、サンゴ、ナマコ。

中旬 ビバライシ、キクメイイシ、ウミマツ、

ブリ。

下旬 タイ、カレイ、サバ、イナ、アナゴ。

二月

上旬 ドビ、フクロウ、キシ、ヤマドリ、ツル、

サギ。

中旬 ツチ、オナ、イシ、ネバツチ。

下旬 テツ、アカ、シンチエト、ギン、ナマリ。

三月

上旬 ブリキ、アルミニウム、セキタン、セ

キユ、ミヅ。

中旬 ハルゼミ、ウドンゲ、クサカゲロウ。

下旬 ナ、ホシテントウ、テントウムシ、アト

ホシテントウ、ムヂテントウ。

問答

保 姆

「何か新案の玩具はありませんか」

玩具商

「何か一つ御考案を願ひたいもので」

保 姆

「あなたの方の商賣じやありませんか」

玩具商

「毎日子供さんにお接しになつて何か御考案のありそうなもので御坐いますねえ」

* * * * *

文展の子供の繪と彫刻

倉 橋 生

美術展覽會へ入つて、畫題の統計をとつたりするのは、甚だ心ない、藝術に對して無禮な業であるかも知れません。しかし、そんな大した意味でなく、たゞ一場の茶話として聞いて下さい。また、どうせ素人の茶飲み話ならば、どんな見當違ひの賞め方をしても乃至惡口を言つても、誰れも氣にするような人もありません。

今年の文部省美術展覽會で、子供好きの足を一番長く止めるものは、何と言つても島成園の『祭のよそほひ』でしょう。何しろ其の色彩の見事なことは、畫題を別にして、場中確に第一位に居るものです。白と水色とを重ねた紋幕の前に、粧をこらした、三人の女の子が腰をかけて、その傍に一人の女の子が立つて三人を見て居る。三人の中間二人は姉妹なのでしょう。頬から脛にかけてのふ

くやかさがよく似て居る。三人とも眼のつぶらな、眊の長い、ぼつとした顔立が誠に可愛らしいが、腰をかけて足の充分地につかない膝から下の姿勢が何ともいへずあとけない。そして其の胸高に似めた帯の具合や、キチンと上手に穿かしてある足袋の形に、東京ならば下町といふ、あの大坂の船場あたりのいとはんの心持がよく出て居るような氣がしました。殊に立つて此の三人を眺めて居る子の横顔と髪とに、大坂の女の子の、何となく、せたはしつこい調子がよく出て居ます。此の人の去年の出品の『宗右衛門町の夕』でも、土地の氣分のよく漂つて居る點に皆感心しましたが、此の作でも、實によく大坂の子供といふ氣分が出て居ます。そこに此の作の特色があるのであるのではあるまいかと思ひます。「子供」といふものを描かうとしたのでなくて、寧ろ大坂の祭の氣分を子供にあらはして描いた處に。——何しろ、此の生々しい筆と色とで、可愛い、子供の繪を澤山描いて下さるこ

とを、此の將來の多い若い閨秀畫家に是非お頼みし度く思ひます。

菊地契月の『鐵漿蜻蛉』は、いふまでもなく子供を描くために描かれた繪ではありません。『鐵漿蜻蛉』といふ、あの神秘的な趣の多い蟲に調和させて、そのかすうかな、夢見る様な情景を漂はすために、畫家の想像から生み出された子供です。

いはゞ、『鐵漿蜻蛉』の精が抜けて出たといつた様なものです。此の繪は作品として非常に優れたものだとおふことです。私も此の作の前に立つて、一歩づゝ後ずさりながらあの廣い場面に見入つた時に、例の水の上をすうと來てすうと渡る『鐵漿蜻蛉』の氣分が、どこをつかまへるともなくつかまへられるのに敬服しました。しかし、私は現實としてはあんな子供は嫌いです。ボンやりとして、始終畫夢を見て居るような子供は。あれは寧ろ『鐵漿蜻蛉の童子』といつたものですわえ。

西櫻洲の『祈禱』に子供が出て居ますが、支那

の一風俗を描いたもので、子供は偶然のつきものに過ぎないのでから論もありません。

栗林王葉の『さすらひ』は、年のころ十一、二、可憐なる女の子が、一棹の破れ三味線を糧とも慰めとも、町から町へ、村から村へさすらひの秋の夕暮を、古堂の石敷へ憩ふて居る、あはれに悲しい子供の繪です。いとしや此の小娘に、こんな可愛そうな目をさせる母親は、容色ばかりは人並すぐれて美しかつたと見えます。細おもての、口の小さい、もみあげの長い、頸足のとをつた、さびしい程に美しい顔が、貧と疲れにやつれ切つて居ます。素足の冷飯草履をはいて、冷たい石に腰をかけて、うつとりと首をかたげた撫で肩をかすめて、あゝ何處までも冷たい世や、銀杏の枯葉がはらりと散りかゝる。私は見て居るのも胸が苦しくなりました。

松村梅叟の『白粉の花』は、ぼつとして、あどけない、少女の一面をあらはそうとした思ひつき

には充分の首肯が出来ます。しかし姉の方の白粉の花式なのに比して、妹の方の顔が、どうして、此の畫面に調和して居ません。私は此の顔を見て、すぐに腺狀殖生アライズンのある子と診断しました。少くも呼吸が苦しそうな鼻です。白粉の花と、此子の鼻とが、どうも調和しないと下手な洒落でも言ひ度くなります。

陳列の順序は後に歸りますが、樸文峯の『唐もろこし』と矢澤菫月の『熟果』は、私の豫て有して居る一つの期待に合つた小兒畫でした。私はふだん斯ういふことを考へて居ます。子供の繪は、あらゆる境遇、あらゆる種類の子供を描いて貰い度いが、其の中に田舎の子供も是非描いて欲しい。美しい衣装粉黛も結構であるが、それのない赤裸々な田舎の子供に、繪になる美しさを見出して呉れる人はあるまいか。斯んなことを、いつも思つて居るのです。『唐もろこし』と『熟果』とは即ち此の私の希望と同一方向にある繪です。『唐もろこ

し』の方は多少畫家の心から詩化されて居ますが。『熟果』の方は田舎子供のありのまゝが、熟果といふ極めて好適なる氣分を背景として、よく描かれて居ます。たゞ此の作が、もう一ときり大膽なシンブリシチーを發揮して居たら尙よかろうにと思ひます。

西洋畫の方に移つて第一に南薰造の『搖籃』に來た時、少しく散漫になりかけて居た私の注意が、その小さい子供の寢顔に吸ひ込まれて、丁度寢入つた子供の傍に居る時のように呼吸をこらして、そこで立止まりました。質素な、しかも却つて趣味の多い簡單な搖籃の中で、毛布にくるまれて、暖かそうにすやくと寢入つて居る子供の顔、殊にその口もとの可愛らしさが、私はたゞもう黙つて見入るばかりでした。私は常から南氏の作風を好んで居る一人なのでして、その穏和な、明るくて暖かみのある、堅くるしくない堅實さのある處は氏の作のいづれにも通じて私をよめるこぼす處なの

でした。今年の此の展覽會に出て居る『春さき』も、實にその好特色を充分にあらはして居るものだと思います。此の特色は子供を描くに、類の少ない適當な人と言つてよいものでしょう。

相田直彦の『少女』は背景の一部に月琴を使つた處が先づ私の興を殺ぎました。それに少女の咽が太過ぎます。

石井柏亭の『N氏と其一家』はお父さんに、お母さんに、姉妹三人の平和なる家庭を描いたもので、見るからに羨しい程愉快な光景です。

矢崎千代二の『草刈』は、子供が主題になつて居る作ではありません。夏山の草刈の午後、父親は鎌を砥石にかけて居る傍に、母親は赤坊を草の上に寝かして乳をやつて居る。姉嬢は茶をわかして居る。こんもりとした後の森を通して夏の日が強く晴れて居る。刈り取つて束にした百合花が、あたりに芳芬を放つて居る。いはゞミレーの作風を思はせるやうな作で、素樸な趣味がよく出て居

ます。たゞいろいろのものが聊か描き過ぎてある故か、全體が複雑過ぎた感が出て、素樸の味を少々損ふ様の氣がします。前に『熟果』に對して言つたと同じように、一層大膽なるシンブリシチーを希望したかつたのです。

森田太三郎の『海の子』、北島淺一の『濁江の夕』、大野隆徳の『池畔の夕涼』、之等にも子供が出るが、深い注意をも引きませんでした。赤松麟作の『鶏と子供』は忠實に子供が描いてはありますが、甚だ靜的で、子供の動的な處が出て居ません。鶏を抱くといふ様な、繪には六かしい處を描いた爲かも知れませんが、そこに物足りなさがありました。

彫刻の中でフェオドラ・グラチンの『デボンシエーアの少女』は餘り小さいのと、それに私に最もよく分らない鑄銅である爲とで、強い興味をひくことが出来ませんでした。白井保次郎の『面』は面白いながら、あゝいふ形は私には谷はない趣味で

した。子供の骨格は可なりよく出て居るとは敬服
しましたが、頭が何だか物足りません。

* * *

斯う見て来て、私は何時の展覧會にも感ずる一
つの感じを此の展覧會でも感じました。但し之れ
は美術展覧會なるものに對する當然の正當の感じ
であるかどうかは私は知りません。たゞ私として
の感じなのです。といふのは何かといひますと、
我國に偉大なる小兒畫家の何故出ないだらうとい
ふことです。少くも小兒の忠實なる研究者が畫家
の中に少ないことです。ラルソンやリヒターの様
な特別な人は假りに別としても、レイノルド、ウ
ーデー、などの様な、小兒畫としての一規軸を出
して呉れる人はないものでしょうか。

美術展覧會へ入つて、随分思ひ切つて非藝術的
の見方と、勝手な言ひ分とをしました。が、子供
と私とに免じて誰れも笑つて許して下さいさるでし
うと思つて居ます。

ゴルドン女史著
菅原教造譯述

美學講話

全十八講

『婦人と子ども』附録

第一講 入門

第二講 心像の話

第三講 感情の話

第四講 藝術の起原と職分

第五講 リズムの話

第六講 舞踊の話

第七講 音楽の話

第八講 色彩の話

第九講 線と形の話

第十講 圖案の話

第十一講 建築の話

第十二講 彫刻の話

第十三講 繪畫の話

第十四講 言語の話

第十五講 詩の話

第十六講 戯曲の話

第十七講 散文の話

第十八講 美と藝術

第十一講 建築の話

— 目 次 —

概説——建築は抽象的——確立せる形の隋性——建築の表現性——裝飾の原則——風景と建築——建築の型式數種——
埃及式——希臘式——ビザンチン式——ゴシック式

概説

建築は彫刻、繪畫及表面圖案と違つて、一層實用的藝術と認められて居ります。人の使用の爲めに建築は空間を圍み且擁護する務めを致します。私的生活・公民生活・宗教崇拜等、各種の要求を満たし、同時に眼を歡ばすと云ふ一般的要求にも添ふのが、建築美術の二重の目的であります。建築は純粹裝飾の如く或目的物の模倣ではなく、目的物それ自身であります。然も亦純粹裝飾と違つて、成就すべき特種の目的を持つて居ります。其の人生との實際的交渉にも拘はらず、建築は抽象藝術として知られて居ります。

建築は抽象的

ヘーゲルの術語に依れば、藝術は觀念（具體的の世間的過程を意味す）を官能に表現するものであります。藝術の最古の形式は觀念の不完全な半面的現示で象徴的且抽象的なものであります。建築は人間の情緒及事件をうつし出す藝術よりは間接的で、またそれ程自由にならぬ點に於て抽象的であります。建築は今一つの意味、即その觀念表現性より、一層建物の實際の構造に關係の多い意味に於ても抽象的であります。一建築物はそれを成して居る質料や線が、眞直に其の用務を果たさうとして、模倣的の意味に

乏しく、又はその目的から理由なく外れる事が少ない時には抽象的であります。美術的建築の要素は質料、空間及線で、我等が日常經驗する視覺世界を抽出したものであります。例へば垂直の柱身シャフトは、或意味に於てはいろ／＼な自然の形に似て居ります。即樹木の幹の様でもあれば、花の莖の様でもあり、動物の足の様でもあれば、人間の胴の様でもあります。柱身は是等凡てに似て居り、是等凡ては、直立で且重量を荷ふ事の出来る點に於て互に相似て居ります。同じく水平の棟木は、横倒しの樹幹、長い平たい石、洞穴の屋根又は床に似て居るといふのは、是は單に棟木が横になつて居て寒暑風雨を防ぐと云ふ點からであります。垂直の柱身も、水平の棟木も、共に許多の自然形に共通して居る要素を代表して居ります。即ち共に集合グループの普遍的特質——一方は支持、一方は庇覆——を、集合中の或材料をそのまま踏襲せずに、具體化して居るものであります。此の意味に於て、兩者は共に

抽象的形式であり、集合の共通若くは普遍的觀念を代表してゐるものであります。柱身及棟木の如き簡單な幾何的形體は、人がそれに聯結する情調は、凡てそれに似た物の過去の聯想から來て居るにも拘はらず、特殊の狀況とは全く懸けはなれて居るので、支持及反復の觀念以外、別に何物を代表してゐるとも、何物を模倣して居るとも思はれないのであります。原始建築家は、木の枝なり石なり、有り合ふもので小屋を支へたり覆ふたりしました。併し支持と擁護の觀念が、有り合はせの形と離れる、即單個の石亦は材と獨立すると同時に、建築家はその材料に對して批評的となり、其の不適切な所を心で削る様になり、且自分の觀念を一層直接に抽象的に履行することを想像し始めます。

確立せる形の情性

建築的發明家は、あら

ゆる他の發明家の如く既存の事物から自分の特種の目的に必要な原則を選択致します。併し時には

既存の形は、藝術家がそれから抽出することが出来ず、傳説的の中から論理的要素を分拆することが出来ぬ程、多大の暗示を持つて居ることがあります。その爲に古い形、又は形の變化は、もはや入らぬ所にまで繰り返されることが往々あります。埃及の比較的小さいピラミッドの中には其の入口の楣が「明らかに木造を思ひ起させるものもある。如何となれば、大抵の場合、二つの柱を結びつける圓筒狀の幹形の棟があり、部屋々々の天井までも木材を結び着けた様にしてある所がいくらかもある」とリュブケは申して居ります。希臘のドリヤ式の寺院が木造時代の面影を存して居る事は、よく書物に出て居ります。クレーンは「ドリヤ式の寺院は、かの原始的構造のあらゆる特徴的細部をそのまゝ留めて、單に木造を大理石に替へ美しく大きなものとしたるに過ぎず」と申して居ります。赤羅馬人が希臘の圓柱を模寫して、其の弓形の門や天井を結びつけた時、圓柱の頂いて居つた縁を

も幾分残しておきました。ステーサムが申しました通り「彼等には……圓柱は長押なしでは不完全に見え、従つて圓柱からすぐアーチを出す代りに、圓柱の上に適宜な長方形の長押をはさんで、アーチなり圓天井なりをそれから出した」のであります。是等は、古い形を何の考へもなしに踏襲した例であります。これで、具體的藝術品は必ずしも構造上の必要、又は意識的美術的選擇に依つてのみ、説明しつくすことは出来ぬと云ふ事が分ります。併し建築家が進むに従つて、美術思想に依つて古い形式を批評的に分拆し、構造上、又は新しい形の裝飾上、必要な部分のみを保留致します。

建物の表現性

建築はいろ／＼の方面に於て表現的であります。建築は氣候狀態に會ふ方法であり、且その嚴烈に對する反應でありますから、第一に氣候狀態を表現して居ります。屋根・軒蛇腹・雨滴石等は、雨を運び流す目的に應じ、北方の建

物の切立つた破風は、雪を落とします。熱い日をさへぎらねばならぬ南方の建物は、比較的窓の間が小さく、之に引換へて北方の建物は、比較的窓の空間が大きくて、霧の深い日の薄い状況にあてはまる様にしてあります。

建物はそれを作る職工の社會的條件をも反映する事が出來ます。ラスキンは、或建物の細部が相似て居るか居らぬかを見れば、各職工が自由に腕を振ふことを許されて居るか、又は唯の器械扱ひにされて居るかの度合を見分けることが出來ると云つて居ります。其の言に「希臘の建築の如く、凡ての大斗だいとが同じ様で、凡その剗形くわがたに變化が無ければ、職工は全く器械にされて居るので、……若し又ゴシック藝術の如く、設計上、實施上限りなく變化があれば、職工は全然自由を與へられて居つたに相異なる」云々。古代建築等は、多く構想は簡單で、大きさが非常なので、従つて多數職工が少數考案家に屈服して居ることを表現し、多勢

の智力の聯合より寧ろ多量の蠻力を示して居ります。ゴシック建築はこれと反對に、單なる分量的構成物では無くて、多くの細部にわたりて想像力を示し、專制的命令にぼんやり従ふのとはちがひ、頭を働かせ興味をもつて共力した結果を見せて居ります。

宗教の用途に充てられた建物は、其土地の信仰の種類を表現して居ります。僧徒の職務が、神聖なもの又は非常に重要なものと思はれて居る寺院では、神壇の位置に力を入れます。さう云ふ寺の主體は、聖場として高く築かれ、勾欄で圍まれた神壇の端まで、通ふ通路になつて居ります。又一方に諸の祈禱が祭儀の主部になつて居る寺では、芝居又は聽講所の形を取る傾向があり、長い通景は淺い圓いものになります。回教寺院には禮拜所へ導く通景のないのは、回教徒は禮拜の如何なる部分をも神聖現して居ないからであります。

建築は彼のゴシック式が向上心を表はし、希臘式

が正理と安靜とを表はし、埃及式は神祕と畏怖を表はして居ると云はれる様に、建築家の情操なる實質なりを表現することもあります。建築が或情操を表現すると云ふのは、建物の各部各線は建築家がその情操を表はさうと意識的に意匠したと云ふ意味ではなく、建物全體として或感情の影響を受けて考案されたものだと言ふに過ぎませぬ。ゴシックを例に惹くならば、ゴシックの寺は全體として意識的に宗教的崇拜を表現せんとしたもので、斯様云ふ高塔を作るべく余儀無くした構造上の必要は決してありませんでした。けれども高大なものを作らんとする決心の成つた時に、それに達せんが爲めに尖直のアーチを使ふ構成的必要が生じたのであります。斯様に尖直アーチは、始めは唯の工藝上の要求でありました。出来上つた作品を觀る人には、建築物の表現は線及質料の生理作用に及ぼす影響に依ります。上に述べました通り、或線は累堆せられた情味をもつもので、従つてそう

云ふ線が或建物中優勢を占めて居る時には、其建物は全體として觀者に特殊の影響を與へます。斯う云ふ有意味の線を新しく配合しますと、或建物に獨特の情調を與へる事が出來ます。

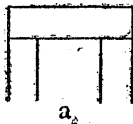
最後に建物はそれ自身の構造及各部の設計の原則を明白に示して居れば、表現



的と云はれる事も申しておかなければなりません。建物の主腦



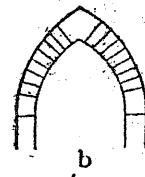
の線は、普通建築家が決定した機械學上の問題及それに依つて成し遂げた物理上の手段を隠すより寧ろ顯示すべきであります。以下五六の例に依つて、原則を表はしてゐる線と、隠してゐる線との間の相異が分りませう。茲に示した圖の a、b、c に於て



は、内側の線は各自、楕圓アーチ、尖頂アーチの線を成して居ります。併し三つの場合は皆一様に、支

を成して居ります。併し三つの場合は皆一様に、支

柱間の空間には、垂直的壓力のみを強める横材が架してありますから、構造上の法則即ち楣の法則



は同一であります。線と同時に、

構造上の法則に於ても穹窿に作るには、此の圖a、bに於けるが

如く、側面の壓力を強める^{ヤリ}追石

で穹窿を造らなければなりません

ぬ。これを反對の側から説明し

ますと、楣の線に枠組を被せて

眞の穹窿の樣に見せた建物の如

きは、一般に不當な手法とされ

て居ります。同じ理由で、外見が圓屋頂で、内部

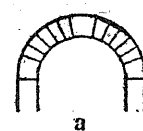
の天井が平面では不釣合であります。表現的なら

しめんが爲めには、外面に依て幾分内面をも推測

し得る様にしてなければなりません。若し建物の

一部分に他の部分をも表現させやうと云ふなら

ば、各線を通じて或一致と様式全體に通じて一貫した所がなければなりません。細部が全體の線に



反響して、建物全般の特性と一致した様な調和があれば、各部が全體を表現して居ると云へます。ラスキンは建築の表現の問題を殆ど道徳上の事の様にして論じて、大理石と見せ掛ける贗造物などの如き材料を傳ふのは悪いと申して居ります。又唯だ見えない所だからと云ふので、建築の一部を仕上げずにおくのは不正直であり、手工の裝飾の代りに機械製のものを用ゐるなどは「許すべからざる、純然たる虚偽」であるとも云つて居ります。斯ういふ説を正しいとする證據はどこにありますか、建築と眞言との交渉とは何でありませうか、建築に於ける眞實とは、外見と構造上の事實との一致に外ならぬと云ふ事が出来るのであります。併し、此説には多少取捨の餘裕があるので、上手な偽物、全く眞物らしく見えるもの、眞物であつても好いが偶々偽物で、あるにすぎぬものと、一方一目で贗造が分かるものとは、區別をし無ければなりません。もし大理石の似せが間然する所なく出

泰で居て、當然大理石を使ふ所にそれをを用ゐてあるならば、其の結果は美術的に悪くはありませぬ。けれども第一種の際立つた不自然がすぐ目につく様な虚構は、大抵不快なものであります。此種の虚構の例は圓屋背に時々見受けれます。ロンドン聖ボヤ少に寺院の外面の圓屋頂は、石の代用の木材だと云ふ事で、内面の石造の圓屋頂から出て居る圓錐石の上に建てられて居ります。全體の上に重い石の塔燈が持たせてあり、此の燈籠は外面の圓屋頂が背負つて居る様に見えますが、實は隠れた圓錐石で支へてあります。駁すべきは、此の外面の圓屋頂位の大きさと形とのものでは、其の支えをゐる様に見える燈籠を實際到底支へ切れるものではないと云ふ點であります。亦フローレンティン寺院の如きは内外圓屋頂の外殻の間にかくれて居る鎖が無くて、ほんとにあのまゝの形ならばとても立つてゐる筈がありません。目に見えぬ鎖より見える扣壁を用ゐた方が、圓屋頂構造上健全な

原則であります。故に建築家の目から見れば、以上二つの圓屋頂は、共に不可能事を爲して居ると見えます。舞踊家の場合に、單に實際姿勢の好い許りでなく、見物人からさう見える様にもじなげればならぬと申しました通り、建築も又實際堅固な許りでなく、堅固に見えなければなりません。さうすれば眞實なしく受けとられますし、目にも不自然には映りませぬ。全體がしつかりして居て、奇蹟的に見えない様にと云ふのが、建築に必要な唯一の眞實であります。

裝飾の原則

原始藝術に於ては、建物はよく繪畫や野蠻な俗美な物で、こたく飾られるものであります。さう云ふ物は、全體の印象を豊富にするつもりであるに拘はらず、却て折角飾らうとした建物の美を滅ぼす様な事があります。これは、さう云ふ物が單に建物に附けてあるにすぎず、理想物に合體してゐないからであります。今少し發達した藝術では、嵌め込むむかひあではある

とか云ふ必要が感ぜられる様になり、遂には建物にふさはしく且必要だと思はれるものゝみ裝飾と認められる様になりました。調和よく飾るには、二つの肝要な法則を守らねばなりません。即ち第一には、既に建物の中にある形状が模倣に依て強められ美しくされる「反復」の法則と、第二には、反對の性質の線なり形なりを使つて、或形状に感じの好い平衡を興へる所の「對照」の法則であります。第一法則の例は、圓柱の溝に見えて居ります。即ち彫溝が幾筋となくあつて、柱身の垂直線に勢ひを添へて居ります。剗形・軒蛇腕・圓天井の格縁等も、同様な構成線を著るしく且反復して居る一例であります。第二の法則の例は剗形の連續せる直線に、捲いた木の葉や花をあしらつて變化を來す等をいふのであります。「對照」は無論單なる「相異」を意味しては居りません。例へば石彫りの花を反復した飾り邊があるとして、その中へ何か變化を來したいと望めば、小さな色硝子でも、錫の

兵士でも入れて、變化を求めれば求められぬこともありませんが、併し花とさうした物とは餘りに懸けはなれて居るので、とても對照と云ふ感じは起りません。石の花の邊飾りにほんとうの對照を來すには、最初の材料を決してはなれず、花に適當する形、たとへば花と反對の方向に捲く事の出来る木の葉なり卷鬚なりをえらばねばなりません。これで相異を來すことが出來ます。或類似を心にして居る相異が對照であります。對照は原物に對して模倣と同様に嚴密な關係を持つて居ります。

風景と建築

建物の裔飾は、建物の性質に合はなければなりません。が亦次には建物自身調子を合はせて行かなければならぬ風景の爲めの裝飾とも認められて居ります。建物は或範圍に於ては、模倣と對照とに依て其の四圍の自然の性質を映します。希臘の寺院はその適當な位置と關聯して考へれば、印象の強さを非常に増して來ます。岡の起伏が涯しなく小歇みない變化を爲して居る

希臘では、建築は安靜を旨として、風景に平穩な簡素を添ふべきであります。アゼンスのアクロポリスの如き岩勝ちな岩を完美させて居る寺、又はデルフィやエギナの如き高所遠所を見渡して居る寺は簡單で安靜でなければなりません。希臘の風景を統轄するに最も緊要な特性は峻嚴と平衡とであります。其の反對にゴシックの寺は平地に於ける唯一の高處なので、出来るだけ高く聳え立つて其の過多な建築形状の變化を見せて居ります。城の建築は岬や絶壁など、調和して居ると云ふのは、銃眼の強い線がさう云ふ場所の高低凹凸のある性質を助け、それを完成してゐるからであります。小屋の場合には屋根の線を附近の丘や周囲の樹木の傾斜に應ずる様にすることも出来ます。さう云ふ調和の出来る場合には、小屋は全風景に美を添へます。

建築の型式數種

建築法は、楯、圓穹窿及尖頂穹窿の三様に分けるのが普通であります。今日

迄歐洲には少しの間隙もない特異の様式とは、希臘・ビザンチン・ゴシックの三様式より外に無かつた」とムーアは云つて居ります。楯建築は、希臘の寺院に最も完全に代表されて居り、ビザンチン式は、圓穹窿と圓屋背との使ひ方を最も好例證し、ゴシック式は、炭頂穹窿と高い破風との用法を示して居ります。以上の三種と今一つ埃及式とを下に説明して、各模範的線と空間の配置とが、觀者に及ぼす情緒的效果の特質を究はめませう。そして是等の建物が刺戟する感情と、その刺戟の仕方とを明白に知り度いと思ひます。

埃及式

埃及の寺は、長さが輻の三倍もある廣大な長方形の平面圖の上に建つて居ります。

獨逸の美術史家リュブケはその外見について「暗鬱な凹面の軒蛇腹を載いて居る巨大な斜の壁がその周圍をとりまいて全體に嚴肅な神秘的な性質を與へて居る。寺院の壁の單調な面を亂す窓もなければ、柱廊があるでもない」と云つて居ります。信

着は巨重な門を過ぎて、大きな圓柱の長い列を圍む大廣間や内庭をとほつて行きますと、遂に柱の

並木道が最奥まで通つて居り、そこに神々を祀つた清淨な、神官達しかはいられぬ小さな奥まつた部屋があります。建物の外の部分は凡てこれに向ひ、これに進む路になつて居ります。建物全體の大きさと、無限の堅牢さと、内部の強大な圓柱と配置の壯大とは、驚異と畏怖の情操を起させるには申分ありません。大きな斜の壁は、ピラミッドの如く、永久不滅の力を暗示して居ります。

神秘の印象は唯に密閉された、非交通的な外面のみでなく、神殿が遙に奥まつて居て、宏大な建物の長さ全體を行かなければ近附く事の出來ぬ事實に依て養はれます。埃及の寺院はあらゆるものより超れて、力と耐忍とを強めて居る點に於て、古代の理想と古代の政治との表現と見る事が出來ます。これは比較的單純な觀念を大仕掛けに遂行した。即ち一人の人、若くは少數の人の考へを多數

の人の努力に負はせる事の出來る專制國では有りうちな事態を示して居ります。

希臘式

内面より外觀に重きを置いて建て

られた希臘の寺院は、その柱廊を外にして壁を内にして居る所は、全く埃及式の反對であります。希臘の寺院は又埃及のよりも小さくて緊つて居ります。たとへばパルテノンは一〇一呎に二百廿七呎、カルナクの寺は、三百七十呎に一千二百呎であります。希臘の建て方では、神壇へは一つ道しかないのでなく、方々から近附く事が出來る様になつて居ります。外面は一つの連いた玄關で、此の自由な開放的な建て方と、その中庸を得た大きさとは、禁斷的な神秘的な埃及の寺の外見に依て訴へられるとは、全然別個のものを訴へてゐると云ふ事を示して居ります。

希臘の寺院の主要な線は、力と努力との外見を變へる垂直線と、安靜を感じさせる廣い水平線と、靜平を破らずに活氣と生氣とを添へる低い破風の

斜線とであります。此の寺は非常に讚美されたもので、實に簡素の美の完全な模範であり、靜な公正を表現して居るものであります。此の建物の主要な手法は、すぐ目につきまゝし、構造上の法則は、隠れる所が大びらに出で居ります。必要と思はれる線は、皆しつくり納まつて居り、且反復に依て目立つ様にしてあります。建物を支へる垂直線は、圓柱から圓柱のみでなく、柱身の彫溝にも堅筋繪様の線にも繰り返されて居ります。水平線は軒縁・十壁及軒蛇腹で強めてあります。此の建物は、その圖案の單純と明白とのために、人に依ては峻嚴と克丁の印象をすら受けるものがあります。吾等に提供するもの少く、而もその提供する所は凡て完全なる彼の簡築なる建等ほど莫大なるの無しとはラスキンの言であります。

一見簡單な此の建築のあらゆる部分には、その全體の効果との關係に對して、綿密な注意が拂はれて居ります。角々の柱は空に對してゐるので、

光滲に依つて自然に小さう見えますからそれを價ふ爲めに外のよりも稍や大きくしてあります。剗形の側面は圓の如き容易な明白な曲線を示して居らずに、巧妙に漸次に増減する様にしてあります。^{フリゲリアス}堅筋繪様の陰影は、石の端を分らぬ様に切つて、用意周到に整へてあります。精美巧緻の數々が、均合と細部とに對する卓越せる注意を證明して居ります。希臘の建築上の問題の範圍は、狭いものでありましたが、建てられたものは、何れも藝術上完全無缺と認められて居ります。

希臘式は「合理的」(少々漠然とした言葉ではあります)の建築だと前に申しました。「合理」とは建築上の色々な事に使ふ事が出來ますので、或意味から云へば、作つた目的に適應して居る建築物はいと合理的で、此意味に於ては、希臘の寺と全然性質を異にする他の多くの建物とも同様に合理的です。が若し「合理的」なる語が神秘的又は空想的なるものに反對で、且勝れて中庸

を得たものという意味するとすれば、希臘の寺院が合理的と呼ばれるのは至當であります。大きさに於ても中庸を得、裝飾は相應したもので豪華では無く、無用な變化も餘り無い證據には、最良と認められた形をどこまでも使ふので、一列の柱の大斗は皆一定して居ります。全體としては絶大な威嚴と靜安との印象を與へます。

ビザンチン式

ビザンチン式は、圓穹窿と

圓屋背との極度に發達した建築で、コンスタンティノープルのソフィア寺院の如きは、其の絶好の模範であります。正方形と圓とは力の領域であるところスキンは申して居りますが、此兩者は共にビザンチン建築の特徴で、之に依て集中又は密實せる力を得て居ります。サンタソフィアの地形は殆ど正方形で、中央の大圓屋頂の鼓形輪は、正方形に配置した四つの大きな穹窿の上に立つて居り、方形の角と圓屋頂の輪との間の空間は、四分一の圓屋頂で蓋ふてあります。内部の効果を主として意

匠されたビザンチン建築等は、その圓柱・窓間壁・圓屋頂の面・平面及び其の直線・穹窿線等から、圓部の變化を得て居ります。窓は頂が圓く、圓柱の大斗は中高で細部は全體の方案と合致し、且それを表現して居ります。圓穹窿は楣ほど峻嚴でなく、もつと輕快な線であり、ビザンチン式の内部のその如きは、輕易と彈力との感じを與へます。かう云ふ線と空間とは、廣大な優美な所があるものであります。

ビザンチン建築は、亦其の内部裝飾の華麗な點に於ても顯はれて居ります。金色の背景に對して、着色大理石と立派なモザイクとを自由自在に使用してある事は希臘式の峻嚴とも、ゴシックの沈鬱とも、別個の華奢莊麗の印象を爲すに與かつて居ります。此式は未來に對する渴望より、寧ろ現世に於ける實現の感じを與へます。

ゴシック式

ゴシック式の顯著な形態は、陣に終れる中央の大本堂と、兩側に一ツ若くは二

づゝある側道と、十字路トランプストと、高い尖頂穹窿と圓天井と、外側から穹窿を興へる控壁と、鋭い破風と、尖閣と、塔と筆狀塔とであります。猶立派に彩色した硝子をはめ、石の窓飾りで別けた窓等もあります。これら凡てが秀れたゴシック建築に必ず用ゐられてゐるのではありませんか、併し何れも充分發達したゴシック風の最大の寺院には適した要素であります。ムーアが興へたゴシック式の定義は次の通りであります。

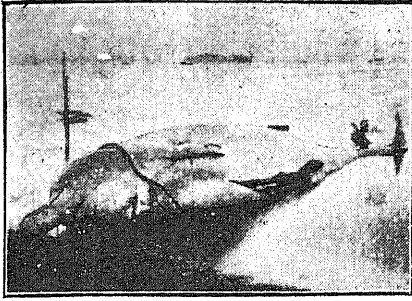
建物の全計畫は、壁より寧ろ精妙に組織され且公然明示されて居る枠組に依て定められ、その全力も亦こゝに宿つて居る。窓間壁と、穹窿と、控壁とで出來てゐる此の枠組は、不用な壁に煩はさるゝことなく、建物のしつかりして居るのは不活潑な重壓的（一番外の迫持プロバハの外は）な所から來るのではなく、反對な力が互に制し合つて、完全な平衡を生ずる活動的な各部の正當な適合に基くので、枠組に力も充分であると等しく各部が輕快に出來

て居る。これは不活潑な古代の固定の様式とは反對の推力平衡の様式である。」

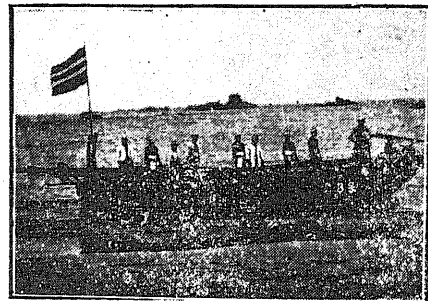
構造上から見た此のゴシック觀を補足するにラスキンのゴシックの「精神的意味」の特徴説を以てする事が出來ます。ゴシックは蠻的にして豪放、其の凸凹の繁多と完全なる仕上げの缺乏とに活氣あらはる。變化と變化に對する愛を示すは、其の裝飾的細部はクラシック美術の如く、一分一厘の相異なく反復せられたるにあらず、正確に平衡せるにもあらず、又尖頂アーチは楣又は圓アーチより更に變化に富むに徹しても知るを得べし」云々。なほラスキンは花や唐草模様が、窓飾りにも彫刻にも矢鱈に使つてある所に、自然を愛する所が見え、亦樋嘴ガイゴイル・小鬼・怪物等に例證された恠異の分子もあると云ひ、猶彼は第五の要點として、或強直性又は反撥的張力を説いて居ります。「ゴシック式裝飾は、其の尖銳強直の獨立性と、無情なる堅忍性と、常に敏快的にして瞬時も遲慢の風なき所にあり、

もし缺點ありとせばその粗奔の點のみ」又最後に
ラスキンは裝飾と細部とが多過ぎる點を希臘建築
の「尊大倨傲」な簡素と正反對の人を歡ばせんとす
る心配の結果としてそれにも意義を認めて居りま
す。

ゴシック寺院と聯關して起る氣分は、肉體の快樂
を捨て、美しい幻影を得る禁欲主義者の心持とも
比べられませう。石の寒冷と灰色、通景と陰影と
の暗鬱の中から、圓天井を成す長い線が明り窓の
華やかな色の混和した所まで眼を導きます。印象
は希臘の寺院のそれよりも一層峻嚴でもあれば優
しくもあります。西方の建物はその表はしてゐる
氣質と宗教とが違ふとほりに相異して居るのであ
ります。



小田喜源部安部沖合ニ於テ捕獲ノ大船



小田喜源捕獲部安部縣内ニ於テ小ル式船船

●肺病患者は憂ふる勿れ

今徐福 小田喜源藏

肺病患者は自ら不治の症と断念し一步一步失望的暗黒の淵に陥る者の如し、然れども同情すべき肺病患者よ、肺病は決して不治の症に非ずとは最近醫學の上に闡明せらるゝ所、殊に最近之が適藥の一大發見を實現せる小田喜源藏は、多年遠洋漁業に従事中肋膜炎に罹り困難の折柄偶然にも海中の或物に含有する一種の靈藥あるを發見し、之に某劑を配合して服用せしに不思議にも平癒せしかば、尙研究の上肺病患者を主として貧血症等の人々に服藥せしめしに、何れも奏効顯著にして痰咳を治癒する事亦不思議なれば、爰に同病患者を救助せんが爲めヤマカユ一と名づけ、今回官許を得汎く世に發賣するに至れるが爾來快癒者の禮狀頻々たり、されば同病者は同氏宛返信料貳錢切手封入照會せば喜んで詳細なる事を通知すべし。

▲ヤマカユ一本舗

東京市麴町區下六番町二十六

小田喜源藏

電話番町三九一
電信略號(ヤマカ)又ハ(ヤ)
振替口座東京二三四〇六番

▲海産業之部

本店	千葉縣安房郡豐津村柏區
支店	同縣同郡睦町平箱
捕鯨事務所	同縣同郡同町千倉
捕鯨解剖所	同縣同郡豐津村沼區字西濱
第一千鮑製造所	同縣同郡睦町平箱

年末 兒童 贈物 のへ 年始

○おもちゃ袋

流行形手提袋に玩具の面白いものを五六種より拾數種入れたる優美な袋

定價 三錢、四錢、五錢、六錢、八錢、拾錢、以上

○手藝品箱

幼稚園でつかふ摺紙、織紙、貼紙、連繫紙、麥ワラ、南京珠、特製連繫用品並に塗方型等を入れたる奇麗な箱

定價 四錢、五錢、六錢、八錢、拾錢、十二錢、以上

○クリスマスストッキング

例の網の靴足袋形の袋に珍らしき玩具及び洋菓子等を入れたるものサンタクロースの裝飾付

定價 八錢、拾錢、拾二錢、拾五錢、貳拾錢、以上

○手藝品整理帖

一、帳面形（美しきレットル貼）

二、二錢、三錢、四錢、五錢、以上

一、折本形（同前）

五錢、六錢、七錢、八錢、以上

○容器

之はお作りになつた手藝品、若しくは御求めの玩具等を入れる器を工夫したものです

一、三段開の箱

四錢五厘

一、トラツクカバン

八錢（紙製）
九錢（ブリキ製）

備考

一、此の贈物品は非常な大勉強且つ季節ものに付前金にあらざれば送品せざることを御承知下さい

一、御入用の方は可成早く御注文下さい
例年立て込んで大困りですから

一、男女の別御知らせのこと

一、早く御注文になれば御園名を入れます
但しゴム印代廿錢のこと（印も送ります）

一、容器の形等弊館の定價表を御参照下さい、（本月中旬に送ります）

東京九段三番町六

フレイベル館

振替東京一九六四〇
電話番町二九〇九